

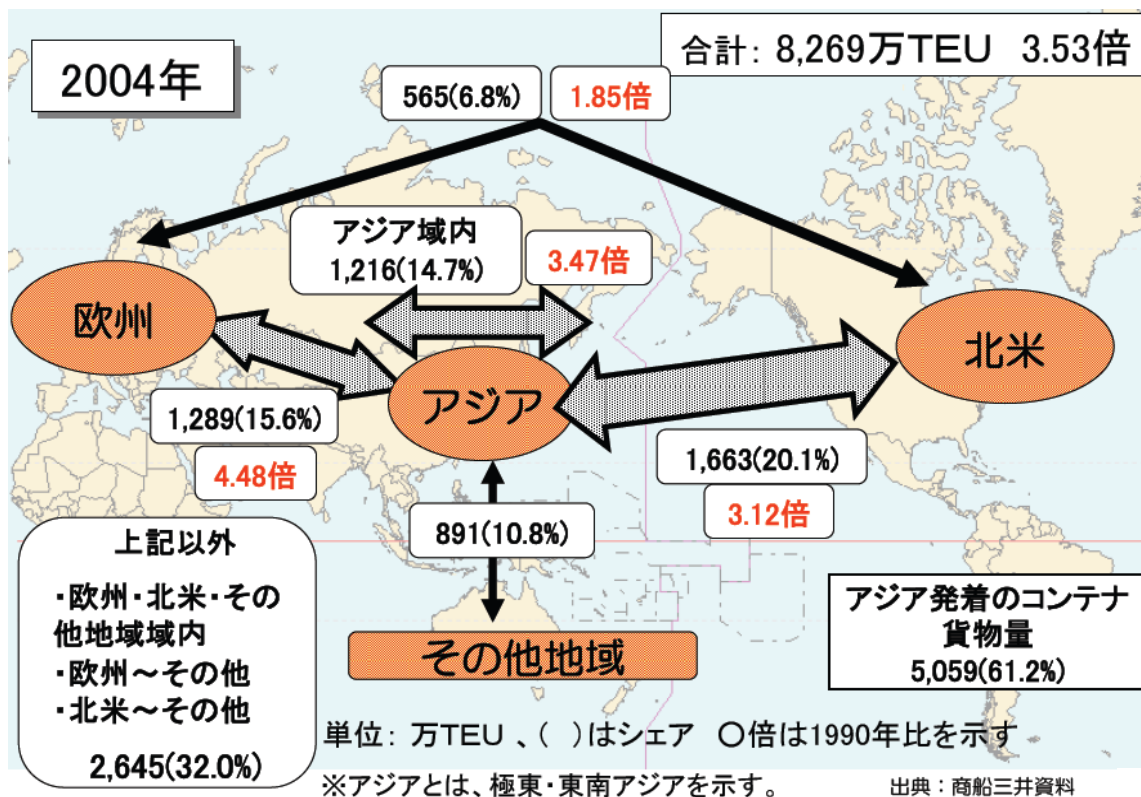
2. 大阪湾を中心とした国内港湾の計画等現況把握

2. 大阪湾を中心とした国内港湾の計画等現況把握

2.1 我が国を取り巻く国際物流の現状

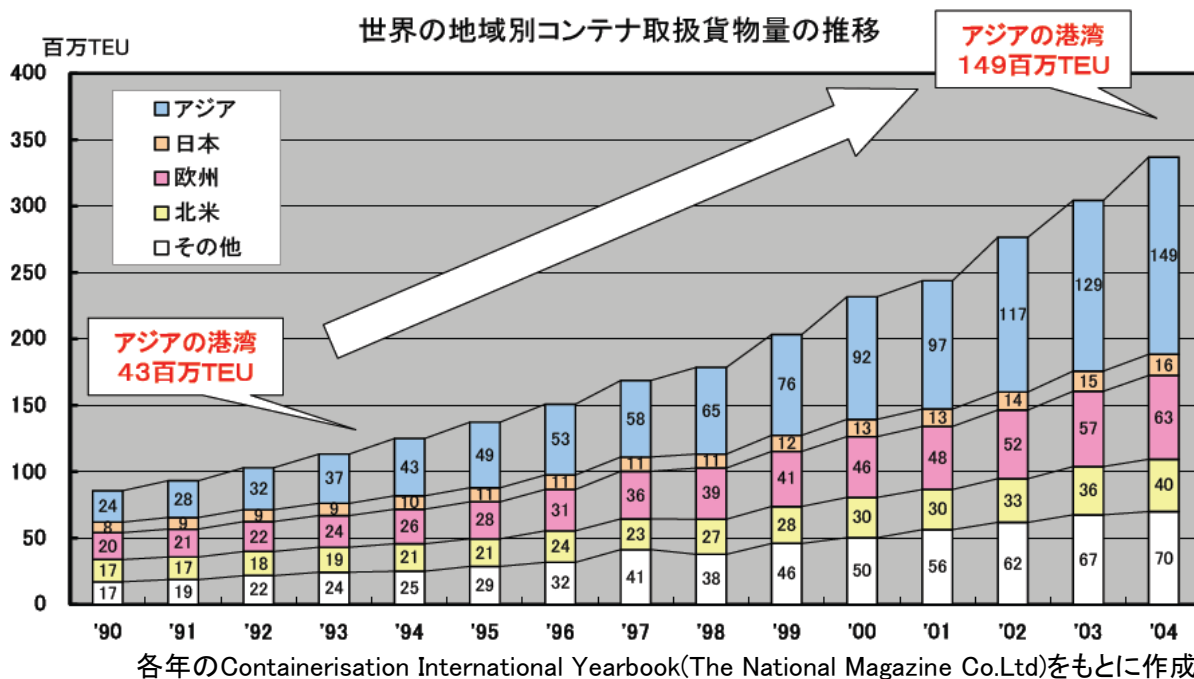
東アジアを中心とした国際物流の現状を以下に示す。

(1) 世界の海上コンテナ荷動量 (2004)



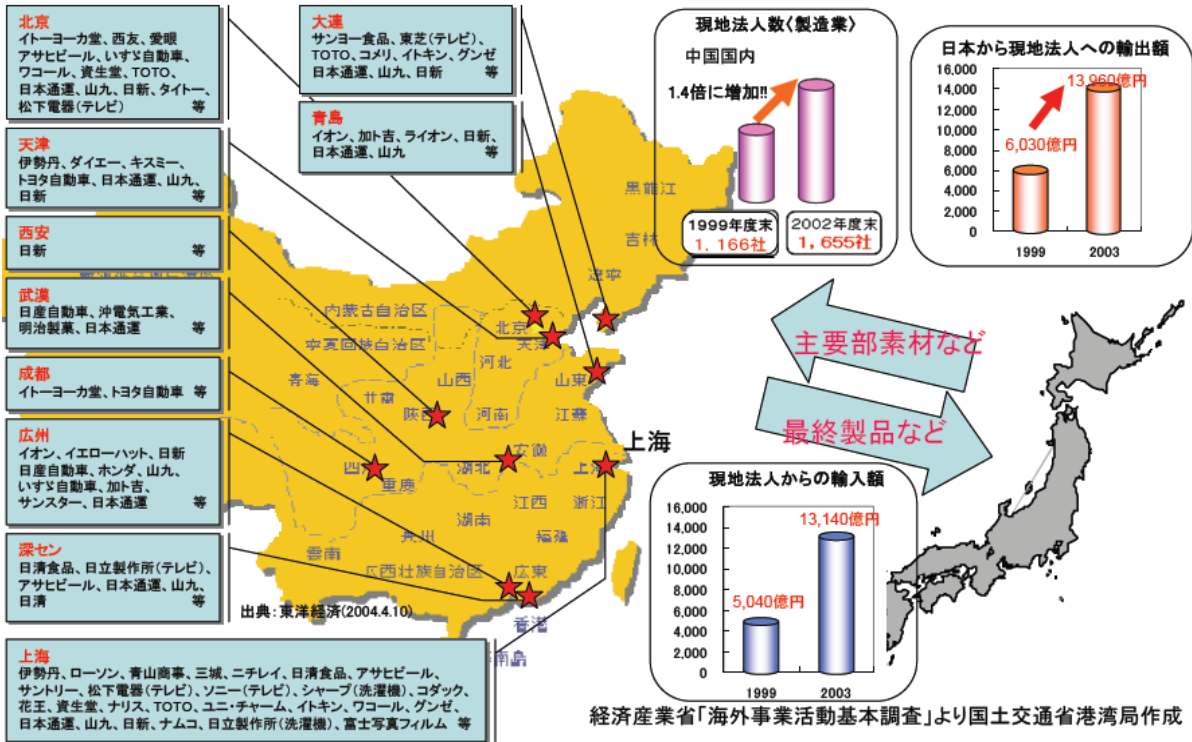
(2) アジアの港湾におけるコンテナ取扱貨物量の増大

アジアの港湾におけるコンテナ取扱貨物量は、2004年で149百万TEUで、10年前(1994年)の3.5倍になっている。(日本は約1.6倍)



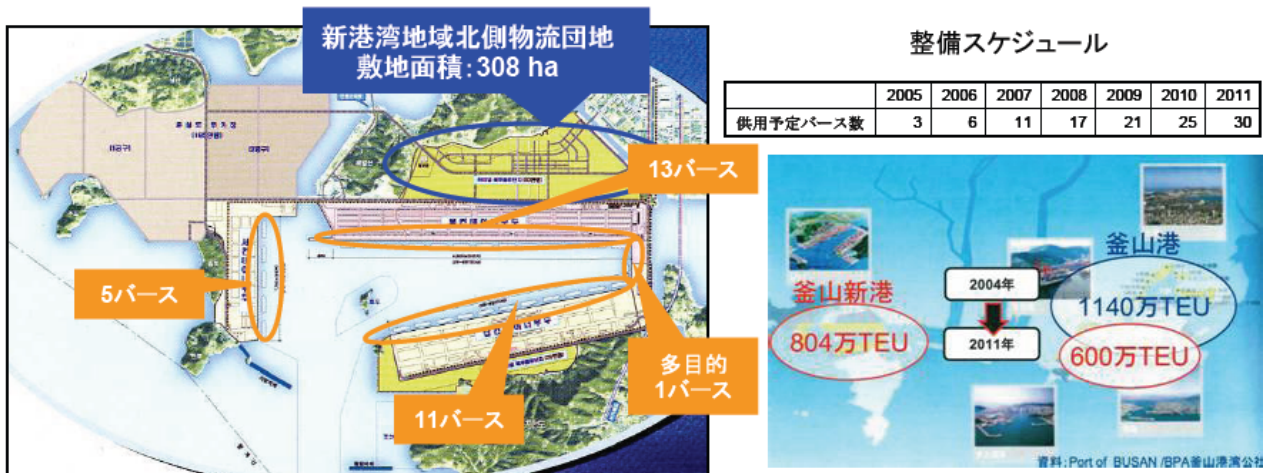
(3) 東アジア経済・物流圏の一体化

我が国産業の生産拠点、流通拠点、販売拠点等がアジアに、特に中国中心にシフトする動きが急速に進展。海外拠点との間で、調達、製造、販売の面で有機的・一体的な運営が進展。



(4) 釜山新港の開港

水深 15m、全長 1,050m の連続 3 バースおよびガントリークレーン 9 基の供用 (年間取扱能力=90 万 TEU)。釜山新港の全体計画は事業費 9 兆ウォン(約 9,000 億円)をかけて、2011 年までに全長 11km、30 バースを整備 (年間取扱量=804 万 TEU)。同時に、ターミナル背後一帯に 37 万坪の大規模国際物流団地を開発中。



※上記は国総研調査、国際輸送ハンドブック、日本海事新聞及び海事プレス等より港湾局計画課がとりまとめたもの。

(5) 上海港洋山コンテナターミナルの開港

上海港洋山コンテナターミナル（洋山深水港）第1期が2005年12月1日、第2期が2006年12月に開港。水深16.5m、全長3,000mの連続9バースの供用（第1期（5バース）で年間取扱能力は220万TEU、北欧州航路15サービスが就航）。洋山コンテナターミナル整備計画は、小洋山地区において2020年に全長11km、33バースを整備予定（年間取扱量15百万TEUを想定、大洋山地区は構想）。

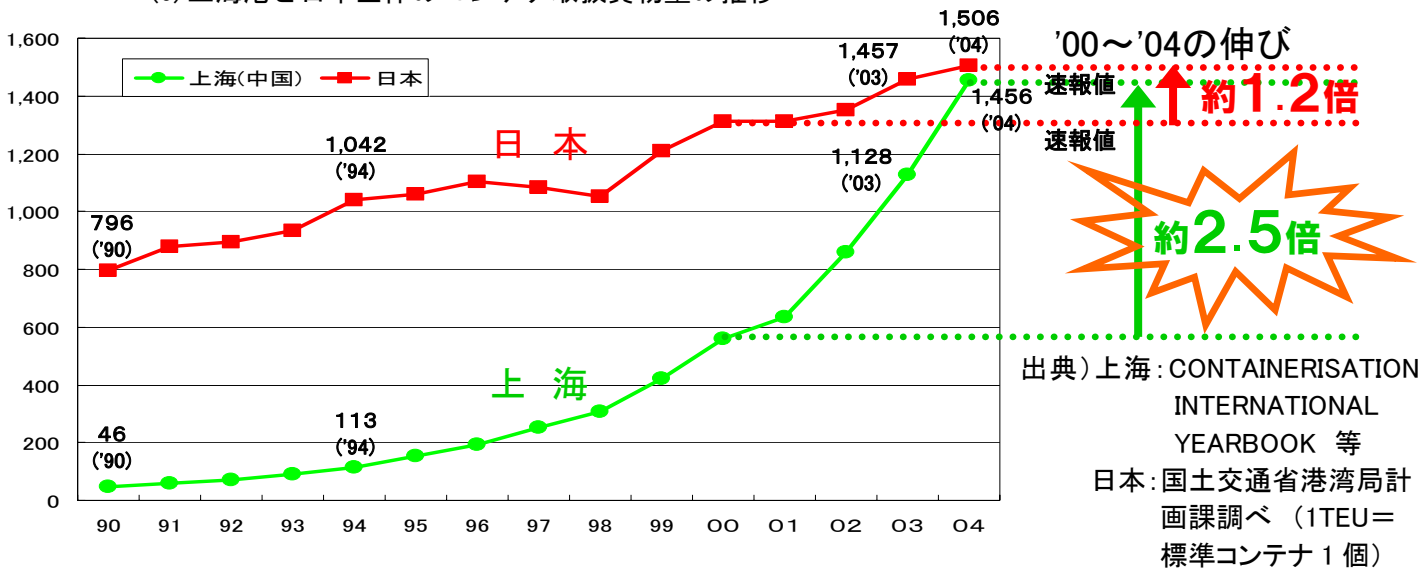


小洋山・大洋山位置図

洋山Ⅰ期Ⅱ期計画イメージ

※上記は国総研調査及びSIPG(上海国際港務集団)の資料より港湾局計画課がとりまとめたもの。

(6) 上海港と日本全体のコンテナ取扱貨物量の推移



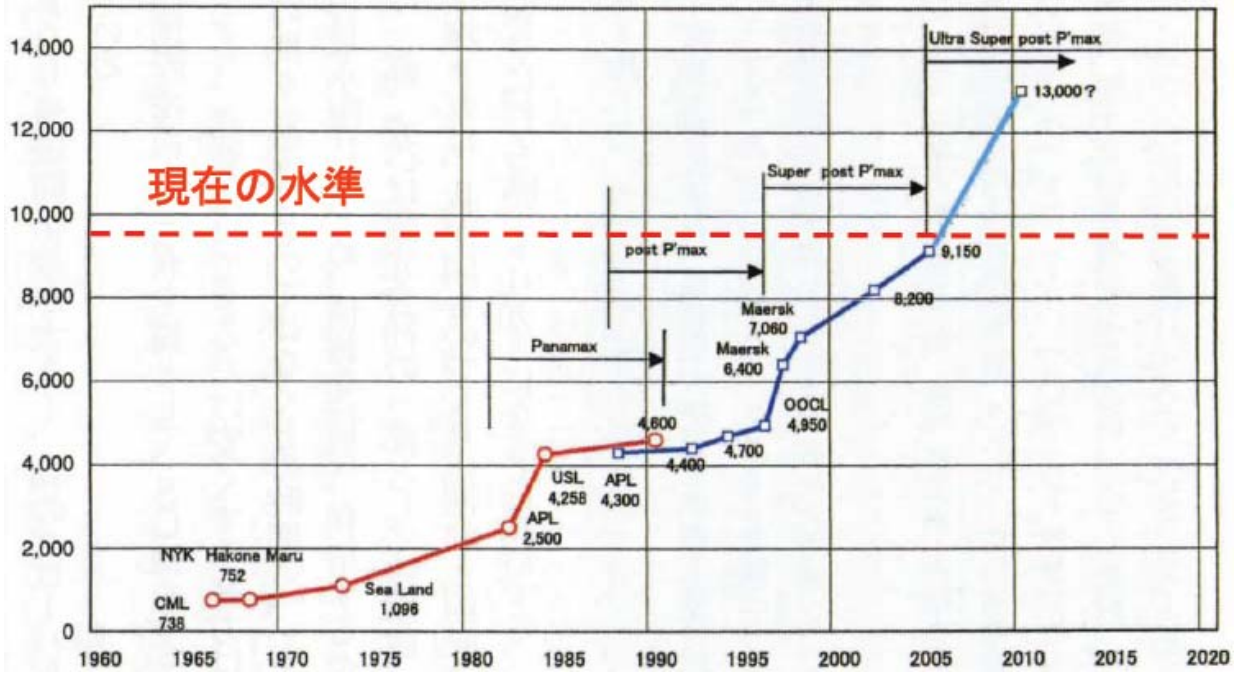
	人口('04) (万人)	1人当たりGDP ('03) (US\$)	貿易額('03) (億US\$)	GDP('03) (億US\$)	面積('02) (万km ²)	人口密度('04) (人/km ²)
上海市	1,342	5,629	1,124	753.1	0.63	2,116
中国	131,331	1,096	8,510	14,183	956	137
日本	12,769	33,727	8,514	43,025	38	338
日本/上海市	9.5倍	6.0倍	7.6倍	57.1倍	60倍	0.16倍
日本/中国	0.1倍	30.8倍	1.0倍	3.0倍	0.04倍	2.5倍

※1\$ = 115.9円 1\$ = 8.3円

出典: 世界の統計 2005、日中経済協会 HP、上海統計年鑑、ジェトロ、CONTAINERAGE 等

※なお、表に示す中国には、台湾、香港、マカオは含まれていない

(7) コンテナ船の大型化



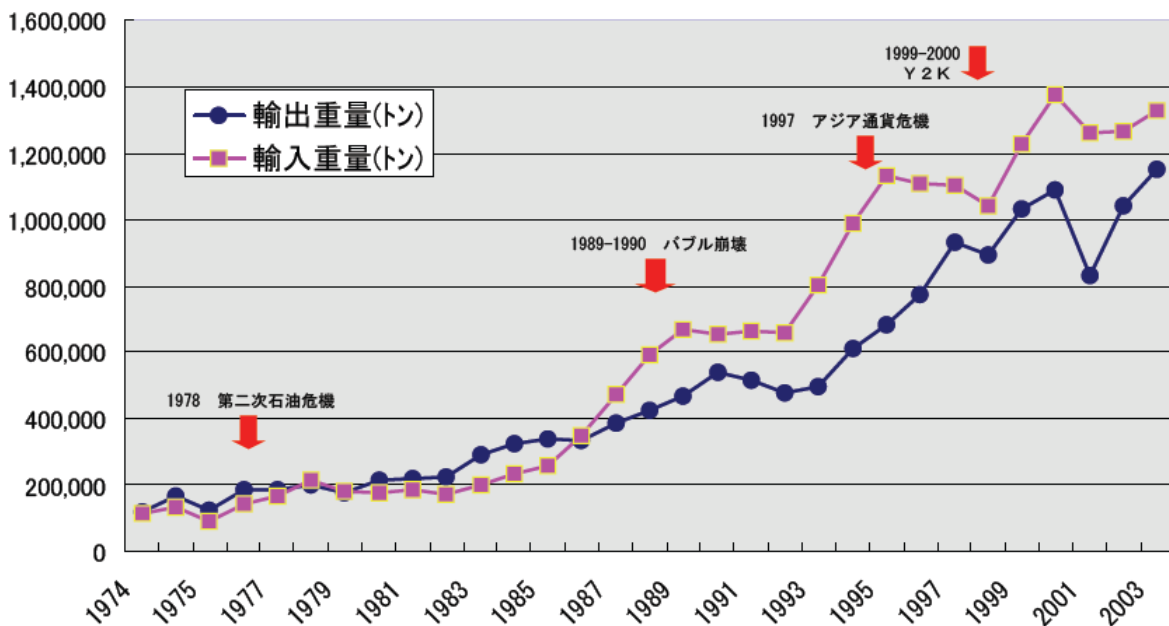
資料: 日本郵船作成資料

就航している最大船型

船名: EMMA Maersk
 積載能力: 11,000TEU
 長さ: 397.6m
 幅: 56.4m
 喫水: 16.5m
 必要岸壁喫水: 18m



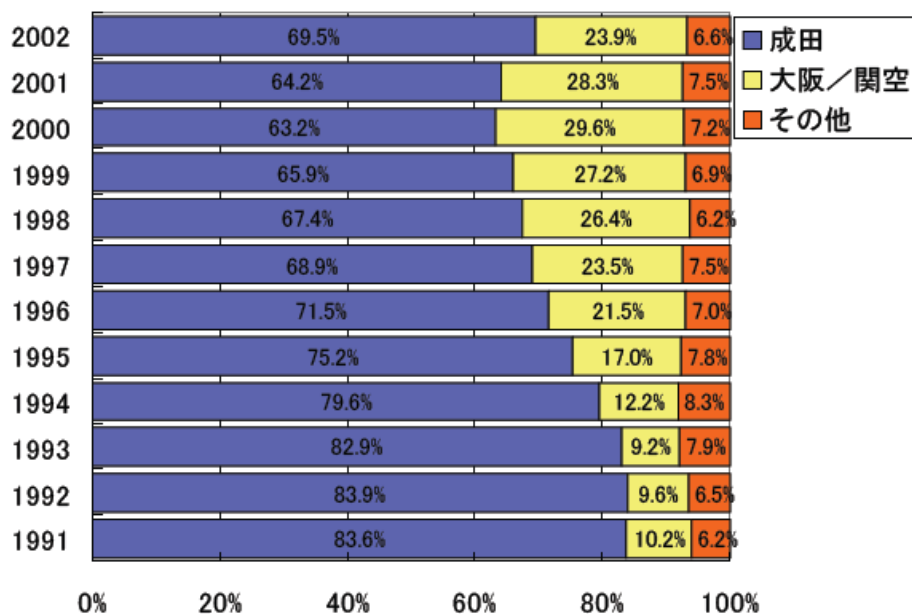
(8) 日本出入航空貨物実績推移



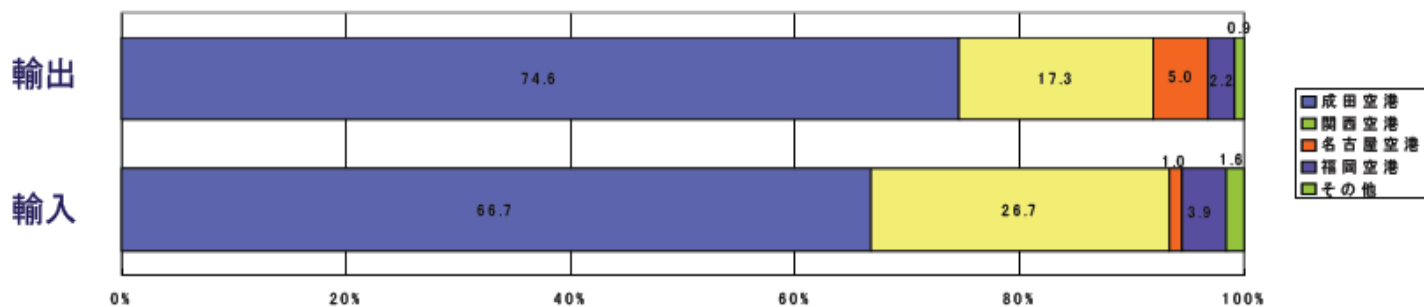
- (1) 継ぎ越し貨物は含まない。
- (2) 出所: 国土交通省航空局航空事業課統計

(9) 空港別国際航空貨物取扱量構成比の推移

① 重量構成比(輸出入合計)



② 金額構成比



国土交通省航空局資料より作成

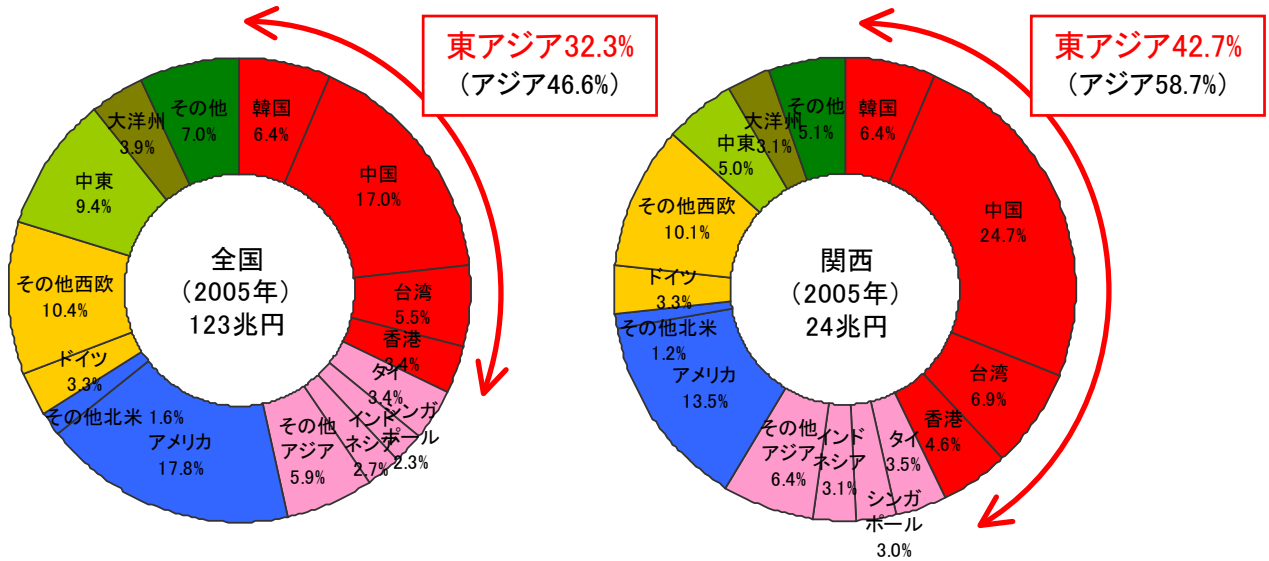
(その他空港: 名古屋、福岡、小松、新潟、鹿児島、那覇、熊本、長崎、新千歳、仙台、広島、高松の各空港)

2.2 近畿地方における国際物流の現状

近畿地方の国際物流の動向について以下に示す。

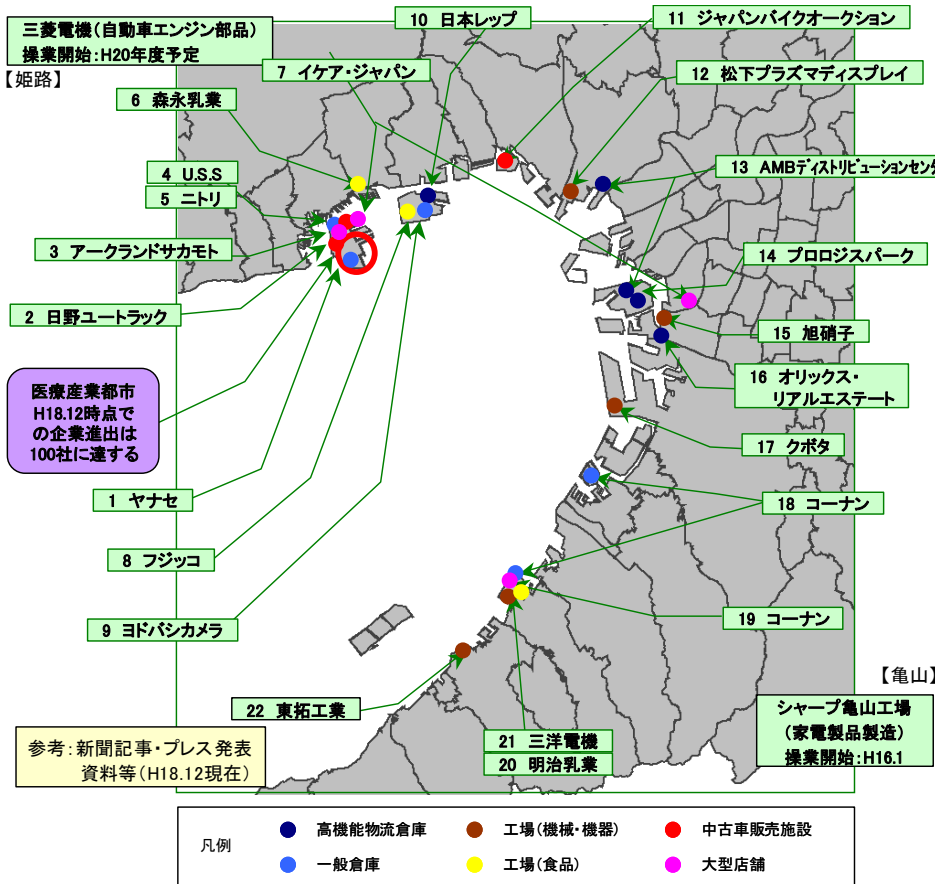
(1) 東アジアとの結びつきが強い関西

全国と比較しても関西は東アジアとの結びつきが強い。



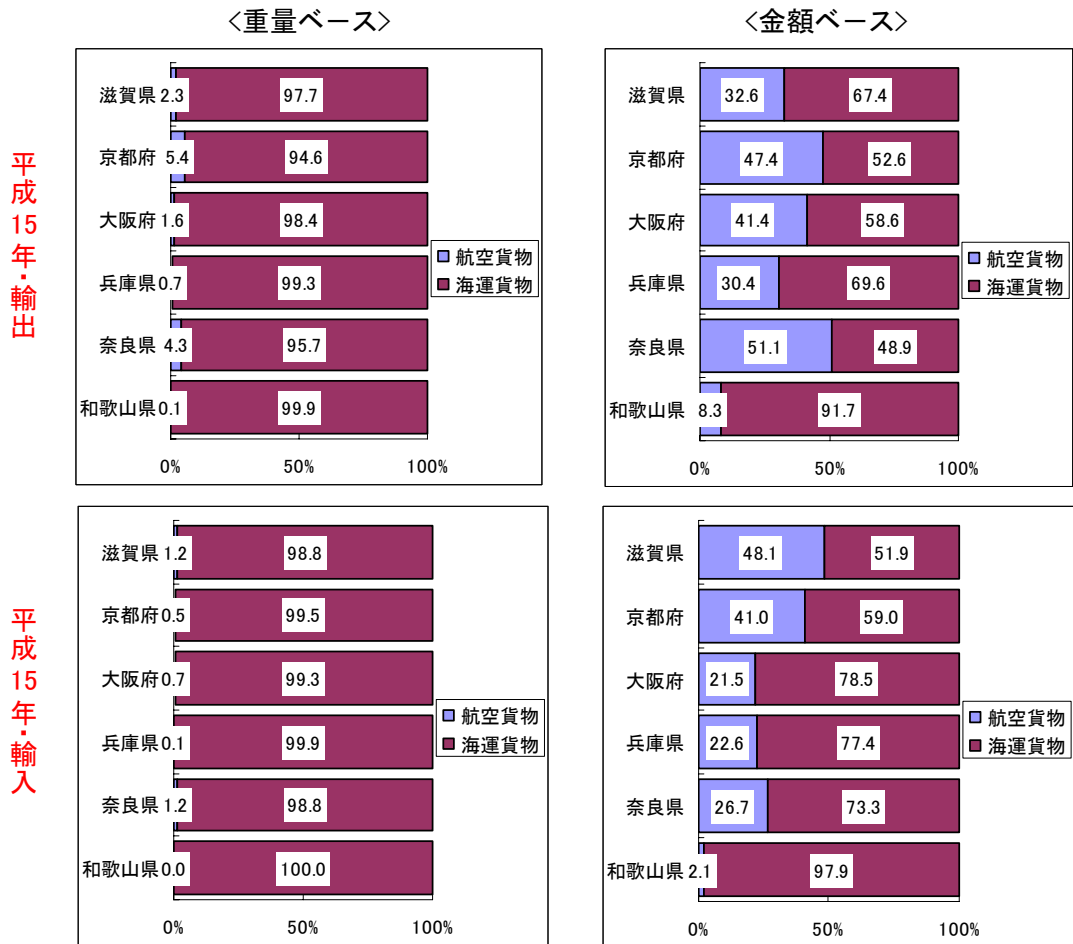
関西:大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県
参考:「貿易統計」財務省

(2) 臨海部の優位性が見直され、大阪湾臨海部において企業進出が進展



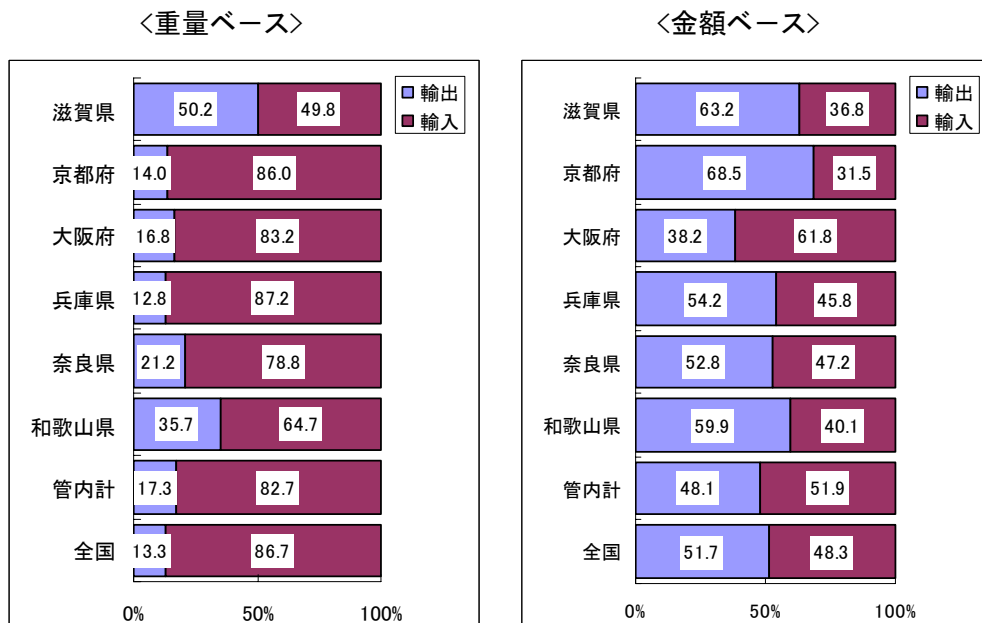
企業種	操業開始年月
1 輸入中古車販売拠点	H18. 2. 16
2 中古車販売	H18. 12
3 ホームセンター	H18. 3
4 中古車オークション会場	H17. 9
5 家具物流倉庫	H16. 10
6 乳飲料等生産	H18. 5
7 家具製造販売	H20夏(鶴浜) H21夏(ホートアイランド)
8 惣菜製品物流倉庫	H18. 10
9 家電製品物流倉庫	H19冬
10 高機能物流倉庫	H20. 2
11 中古二輪車オークション会場	H20. 2
12 PDP工場	H17. 9/H19. 7
13 高機能物流倉庫	H17. 7(尼崎) H19. 8(大阪)
14 高機能物流倉庫	H16. 10/H19. 5(大阪) H18. 8/H18. 11(舞洲)
15 PDP用硝子基盤製造工場	H19. 5
16 高機能物流倉庫	H20秋
17 ディーゼルエンジン生産工場	H20
18 配送センター	H13. 7/H17. 11
19 ホームセンター	H19. 7
20 乳飲料等生産	H17. 10
21 太陽電池製造	H15. 12
22 パイプの製造販売	H16. 12

(3) 各府県の貿易における航空貨物と海運貨物の割合（平成15年）



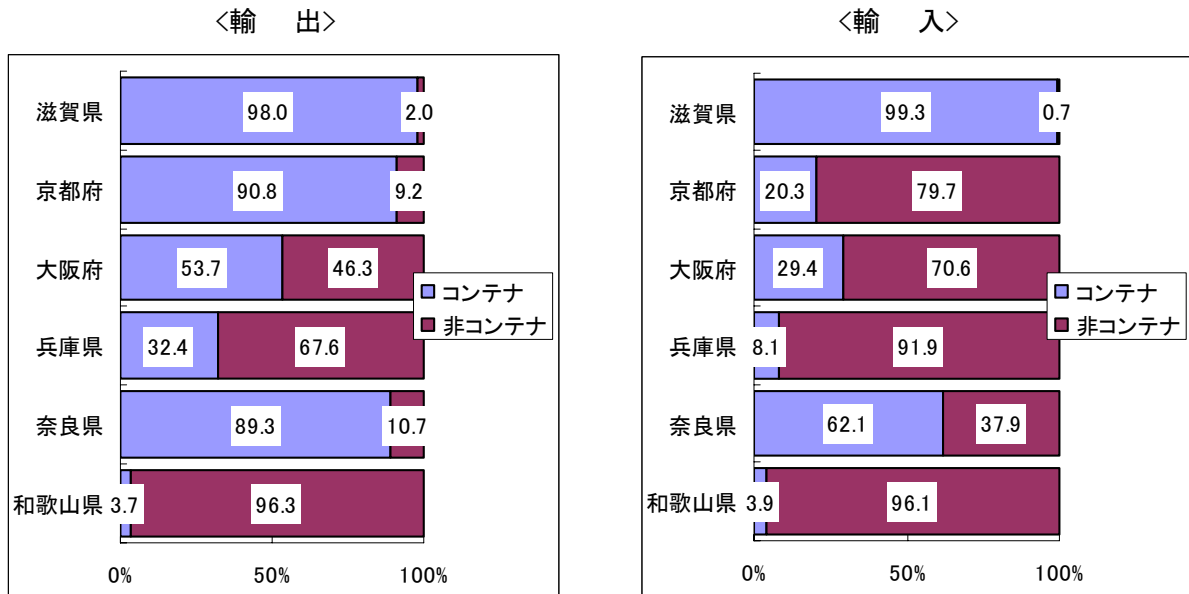
「輸出入貨物に係る物流動向調査」(平成15年、財団法人日本関税協会)

(4) 各府県の海上貿易における輸出入バランス（平成15年）



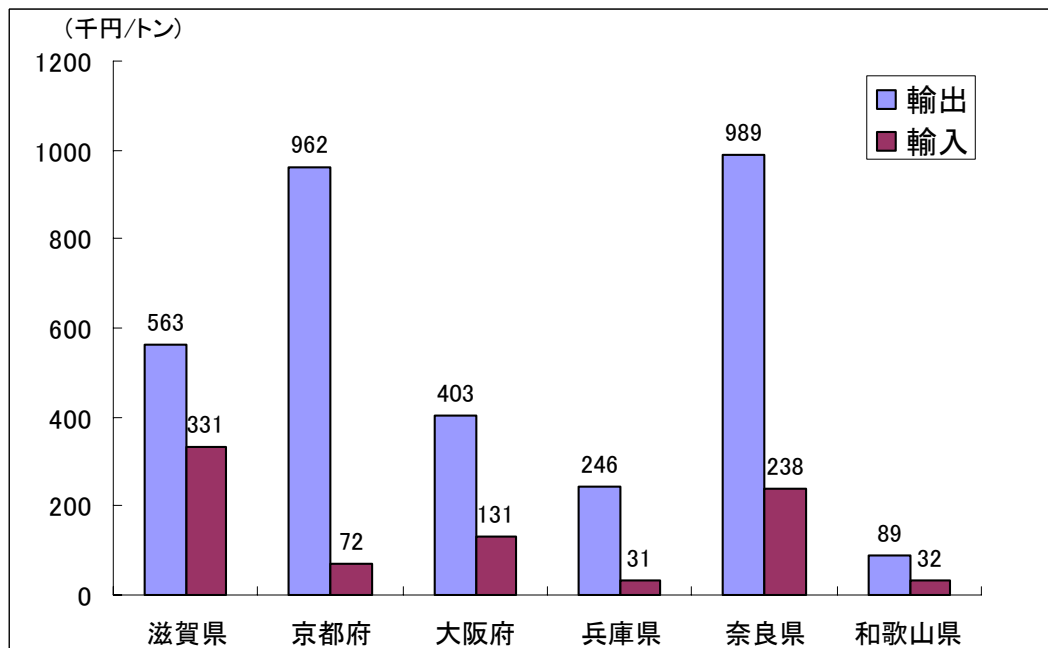
「輸出入貨物に係る物流動向調査」(平成15年、財団法人日本関税協会)

(5) 各府県の海上貿易における荷姿構成（平成 15 年、重量ベース）



「輸出入貨物に係る物流動向調査」(平成15年、財団法人日本関税協会)

(6) 各府県の海上貿易における輸出入別付加価値（平成 15 年）



「輸出入貨物に係る物流動向調査」(平成15年、財団法人日本関税協会)